

『日産自動車における若年層技能者の育成』

～ものづくり技能と人間性のバランスのとれた企業人の育成～

日産自動車では、技術革新が進む中、工場での設備の新鋭化と製品である車のハイテク化が急速に進んでいる。一方事業のグローバル化、若年労働者の減少、雇用の流動化など取り巻く環境の変化に伴う雇用形態の多様化が起きている。この環境の中、同社のものづくりの中核を担う人材育成を実践している日産教育センターでの同社の取り組み事例の発表と施設見学を永井人材活性化委員長参加のもと委員会と教育研究会合同で実施した。

ものづくり技能と人間性の育成

同社の技能教育のうち①短大コース（実務経験者21～23才対象・2年間）②製造経営コース（若手監督者の育成27～34才・8ヶ月間）③保全員早期育成教育（従来15年要しているベテラン保全員を10年で育成する仕組み）について学校長森様、黒木様、猪狩様より発表があった。

育成方針は日産生産方式を軸に「わかる」「できる」「うごける」の3のステップで実践力向上を図っている。人物教育も重視し、短大コースではグループ活動が中心でチームワーク・リーダーシップを養っているなど詳細な資料のもと具体的なご説明であった。



実践力を重視した教育現場

日産教育センターでは、日産の社員が自ら教官となり今の現場で必要とされるプログラムを組み立て、テキストもその都度見直しをしながら指導をしている。製造現場と同じ機械を導入し、現場ですぐ役立つ工夫がなされている。設計はパソコン（CAD）のみでなく図面を描かせるなど様々な実習を取り入れ、モノづくりの基本を体得させている。